

2026年度 入試の 出題傾向

地理

学校法人 河合塾 地理講師 佐藤 裕治

1 はじめに

現行課程に移行し2年目の共通テストは、昨年度と同様に「地理総合、地理探究」と、3科目から2科目選択する「地理総合、歴史総合、公共」として実施された。国公立大学二次試験や私立大学個別入試では多くの大学が「地理総合、地理探究」としたが、一部に「地理探究」のみを入試科目とする大学も見られた。「地理総合」を入試科目に含まない大学でもGISや防災など「地理総合」を含めた学習が必要である。

2 共通テストの出題傾向

▶ 出題分野と全体の難易度

「地理総合、地理探究」(本試)は大問6題で、第1問「乾燥・半乾燥地域の生活文化の多様性」、第2問「津軽平野とその周辺地域の地域調査」は地理総合の分野からの出題で、「地理総合、歴史総合、公共」の「地理総合」と共通の問題であった。第3問「世界の自然環境と自然災害」、第4問「衣料品類の生産、流通、再利用・再資源化についての探究」、第5問「人口と都市」、第6問「ドナウ川、ナイル川、メコン川の流域に関する地誌」は地理探究の分野から出題された(表1)。教科書の項目で見ると地理総合は「生活文化の多様性と国際理解」と「生活圏の調査と地域の展望」の2題、地理探究は系統地理的考察から「自然環境」と「資源と産業」、「人口、村落・都市」の3題、地誌的考察から1題で、昨年度と同様の大問構成であった。第4問の資源と産業の分野では、昨年度がエネルギーと産業に関して網羅的に出題されたのに対し、今年度は衣料品について、原料作物の生産、国内の繊維工業の立地の変化、衣料品の輸入相手国の変化、衣料品の販売、衣料品の再資源化と、モノの生産、流通、消費、廃棄にいたる流れを追う、探究型の学習を意識した構成で出題された。

全体のページ数は、共通テストになって維持していた34ページから4ページ増加し38ページであった(表2)。図表の数そのものは特に増えたわけではなく、各設問とも図表などの資料をしっかりと読み取り、解答にいたるプロセスを重視するため、図表を判読する文章を添えるなど丁寧に作り込まれたものが多かったことがページ増加

表1 共通テスト「地理総合、地理探究」出題分野別一覧

		2025 年度実施		2026 年度実施	
		本試	追試	本試	追試
地理総合	地図でとらえる現代世界				
	地図と地理情報システム	○	○	○	○
	結びつきを強める現代世界				
	国際理解と国際協力				
	生活文化の多様性と国際理解	◎	◎	◎	◎
	地球的課題と国際協力		○		
	持続可能な地域づくりと私たち				
	自然環境と防災	○	○	○	○
	生活圏の調査と地域の展望	◎	◎	◎	◎
	現代世界の系統地理的考察				
地理探究	自然環境	◎	◎	◎	◎
	地形	○	○	○	○
	気候	○	○	○	○
	自然災害	○	○	○	○
	日本の自然環境			○	○
	地球環境問題	○	○	○	
	資源と産業	◎	◎	◎	
	農林水産業		○	○	○
	エネルギー・鉱産資源	○			
	工業	○		○	○
	第3次産業	○	○	○	○
	交通・通信と観光、貿易		○	○	◎
	人口、村落・都市	◎	◎	◎	◎
	生活文化、民族・宗教	○		○	
	現代世界の地誌的考察				
	現代世界の地域区分				
	現代世界の諸地域	◎	◎	◎	◎
	アジア	○			
	アフリカ	○			
	ヨーロッパ				
	北アメリカ		●		
	南アメリカ				
	オセアニア	○			●
	日本				
	複合地域	●		●	
	比較地誌				
	持続可能な日本の国土像	○		○	

◎大問のテーマ ●地誌の大問で取り上げられた地域 ○小問のテーマ・地域

につながったと思われる。分量は多くなったが図表は分かりやすく、時間的な負担増は特に感じられない。

大問別の正答率は、「地理総合」と共通の**第1問**、**第2問**が高く、特に**第2問**の地域調査は資料も分かりやすく、きちんと読めば判定は容易であった。これに対し、「地理探究」分野の**第3問**、**第4問**、**第5問**は正答率の低い設問もあり、大問全体としてもやや低かった(表3)。全体の平均点61.87点は、共通テストとしては2番目に高く、昨年度に比べ4.39点高かった。設問別に見ると、正答率が40%未満は3問、80%以上も3問で、60~80%の設問が半分以上の16問であった(図1)。昨年度は正答率30%未満の設問が4問あったが今年度は1問のみで、正答率90%を超える極端に平易な問題は、昨年度は1問で今年度は見られなかった。旧課程では、上位層でも正答率の低い難問もあるが、極めて平易な問題もあり、全体で平均点60点前後になるように難易度の調整がなされていたが、現行課程では各設問とも難易度のばらつきがないように作成されたと思われる。

▶ 正答率の低い問題から見た受験生の弱点

共通テスト「地理総合、地理探究」(本試)で正答率が26.2%と最も低かった**第5問 問4(例題1)**は、ニューヨーク都市圏とデトロイト都市圏における中心都市と周辺地域の住民について、職業別就業者割合を示した図から、ニューヨークとデトロイト、管理的・専門的職業と生産・輸送職のいずれかを判別する2×2の4択の設問である。この形式は共通テストになって多用されており、一方を決めると他方もほぼ決まるので、実質的に2択に近いが、判断に迷うケースも多い。多くの受験生は自動車工業都市デトロイトでは中心都市、周辺地域とも生産・輸送職の割合が高く、**E**をデトロイト、**サ**を生産・輸送職と判断したと思われる。また、示された図は住民の職業であるが、就業地の立地と取り違い、**F**をニューヨークとして、中心都市で割合の高い**シ**を管理的・

表2 共通テストの解答形式と素材形式

	地理B				地理総合、 地理探究	
	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
正誤文判定*1	7	5	5	7	7	5
組み合わせ解答	20	19	19	16	18	21
図 (内地形図*2)	27 (2)	31 (1)	32 (1)	30 (1)	25 (1)	29 (2)
表	5	6	4	3	6	4
写真*3	3 (7)	2 (4)	2 (3)	3 (8)	2 (4)	3 (7)
ページ数*4	34	34	34	34	34	38
マーク数	32	31	31	30	30	30
平均点	60.06	58.99	60.46	65.74	57.48	61.87

図・表・写真の数は、問題中のそれぞれの番号の合計に、資料として示されたものを加えた。

*1 組み合わせ形式の正誤文判定を含む。*2 地勢図、地理院地図を含む。

*3 3かこ内は写真の枚数を示す。*4 空白のページは含まない。

表3 設問別正答率

(2026年度大学入学共通テスト「地理総合、地理探究」本試)

問題番号	解答番号	正答率	問題番号	解答番号	正答率
第1問	1	65.1	第4問	15	64.3
	2	83.9		16	40.5
	3	64.5		17	55.8
	4	55.3		18	46.9
	小計	67.2		19	70.3
第2問	5	65.9		小計	55.6
	6	78.4	第5問	20	61.2
	7	89.5		21	57.7
	8	69.0		22	76.3
	小計	75.7		23	26.2
第3問	9	65.7		24	48.3
	10	33.3		25	83.4
	11	70.8		小計	58.9
	12	76.0	第6問	26	61.4
	13	44.7		27	64.0
	14	50.9		28	39.1
	小計	56.9		29	78.3
注) 大学入試センターによる。 受験者数は143,237人 平均点は61.87点				30	73.8
				小計	63.3
			合計		62.0

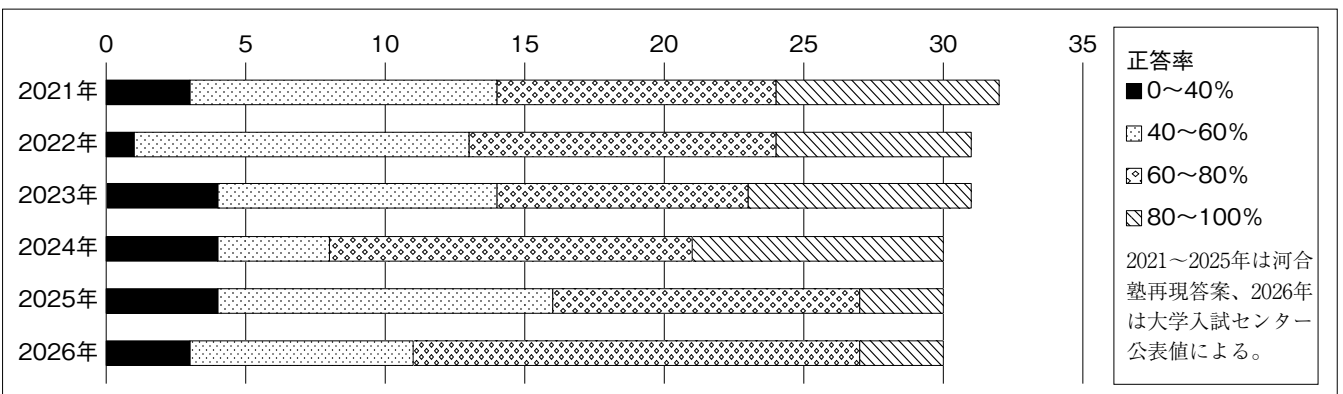


図1 共通テストの正答率別問題数の推移

専門的職業と判断した受験生も多かったようである。アメリカ合衆国では管理的・専門的職業に従事する富裕層は郊外に居住し、工場従事者はむしろ中心都市に居住すると判断するのは難しかったようである。

正答率が33.3%と2番目に低かったのが**第3問 問2**で、アラスカ、ハワイ、ニュージーランドにおける大気中の二酸化炭素濃度の推移を示したグラフからアラスカとニュージーランドの判定と、濃度の季節変動の要因を説明した文中の空欄に当てはまる語句の組み合わせを選ぶ4択問題である。季節変動の要因を植物の活動と答えたにもかかわらず、北半球のアラスカと南半球のニュージーランドを取り違えた受験生が多かったところを見ると、夏の光合成の活発な季節に二酸化炭素濃度が低下することがきちんと理解できていなかったようである。

▶地名ではなく地図上の位置から判断

共通テストでは、国名以外の地名の知識が求められる問題はほとんど見られず、今年度の問題では前述の**第5問 問4**でデトロイトが自動車工業の盛んな都市であること、**第3問 問2**でアラスカが北半球であることを前提としたのが数少ない例外であった。国名でも、**第5問 問3**では人口の自然増加率の推移を示した図中の3か国を「フィンランド、メキシコ、アフリカのマリのいずれか」として、マリについての知識はなくてもアフリカの国であることが分かれば判定でき、アフリカについては個別の国についての知識がなくても構わないとするメッセージのようにもとれる。**第6問 問1 (例題2)**のドナウ川、ナイル川、メコン川流域の気候帯を判定する設問では、地図で3河川の流域が示されており、地名と結びつけた知識がなくても流域の緯度と高度から気候帯の判定は難しくない。正答率も61.4%と標準的で、要求されている知識のレベルが明確な共通テストらしい問題といえる。

3 国公立大二次・私立大の出題傾向

▶身近な事象を地理的に説明する力を問う

国公立難関大学の二次試験の論述問題で近年目立つのが、身近な事象について地理的な視点から説明することを求める問題であり、これまであまり考えたことのないようなテーマを扱い、知識ではなく思考力、表現力を試そうとするものである。昨年度も本稿で取り上げたが、今年度も同様の問題を挙げてみた。

東京大学**第1問設問C (2)・(3) (例題3)**は、海洋に関して、設問Aでサンゴ礁、設問Bでブルーカーボン

●例題1 2026年度共通テスト本試：第5問 問4 **23**

問4 都市は多様な機能を有するとともに、周辺地域との結びつきによって都市圏を形成する。次の**図4**は、アメリカ合衆国の二つの都市圏における中心都市と周辺地域の住民について、職業別就業者割合を示したものである。**図4**中の**E**と**F**はニューヨーク都市圏とデトロイト都市圏のいずれか、凡例**サ**と**シ**は管理的・専門的職業と生産・輸送職のいずれかである。ニューヨーク都市圏と生産・輸送職との正しい組合せを、後の①～④のうちから一つ選べ。 **23**

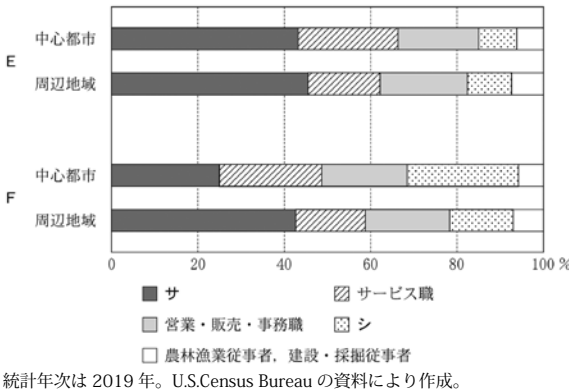
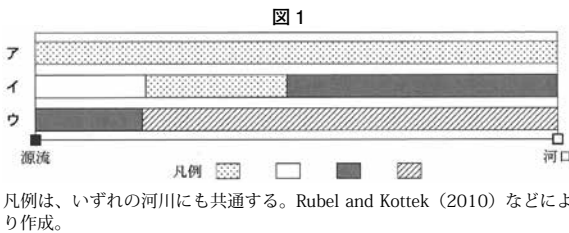
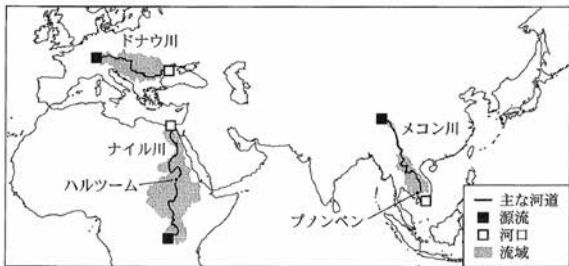


図4

	①	②	③	④
ニューヨーク都市圏	E	E	F	F
生産・輸送職	サ	シ	サ	シ

●例題2 2026年度共通テスト本試：第6問 問1 **26**

問1 次の**図1**は、三つの河川の流域と主な河道を示したものである。また、後の**図2**中の**ア～ウ**は、**図1**中のいずれかの河川の主な河道に沿ってみられる気候を、ケッペンの気候区分により模式的に示したものである。**図2**中の凡例は熱帯、乾燥帯、温帯、寒帯のいずれかである。河川名と**ア～ウ**との組合せとして最も適当なものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 **26**



※選択肢省略

●例題3 2026年度東京大学：第1問 設問C(2)・(3)

(2) 表1-2は、海洋のマイクロプラスチックの給源のうち小さな粒子を直接的に供給するものを、供給量の比率とともに示している。比率が最も高いものは合成繊維（衣類など）である。この理由を人の日常生活と関連づけて1行で述べよ。

(3) 日常生活にともなう衣類からの小さな物質の供給は、合成繊維が普及する前にも生じていたが、以前は重大な海洋汚染の原因にはならなかった。この理由を1行で述べよ。

表1-2

給源	比率 (%)
合成繊維（衣類など）	35
自動車タイヤ	28
シティダスト（人工芝、靴底、調理器具など）	24
道路標示の塗料	7
船舶の塗料	4
パーソナルケア製品（化粧品、歯磨き粉など）	2

国際自然保護連合（IUCN）による。

を取り上げた後に、海洋プラスチックごみを扱ったもので、(2)ではマイクロプラスチックの供給源として最も高い比率を示しているのが合成繊維（衣類など）である資料を示し、その理由を人の日常生活と関連づけて答えさせている。単に「合成繊維」とせずに「衣類など」と手掛かりを与えてはいるが、「日常生活」が洗濯であることに気づいた受験生は少なかったかもしれない。また、一橋大学I問1・問2（例題4）は、動物との共存というテーマの大問で、問2では「ペットの家族化」が意味する社会の変化について、日本を例に説明させ、それが都市化とどのように関連するかを論じさせている。小論文の問題のようにも見えるが、あくまでも都市化という地理的事象との関連を述べるのが求められており、都市化に伴う住まい方や家族構成、地域コミュニティなどの変化とペットの家族化をどう関連づけるかがカギとなる。たとえペットを飼っていなかったとしても、日常的な事柄をしっかりと観察し、常に「なぜか？」と思考する習慣を身につけておくことが重要であるという出題者のメッセージのように思われる。

▶ハザードマップを使った問題

「日本の自然環境と防災」は、「地理総合」の学習内容

●例題4 2026年度一橋大学：I問1・問2

公衆衛生問題を引き起こし、また住宅の価値を下げる恐れのあるネズミ、野犬、カラスや、さまざまな害虫を、人間は駆除しようとする。これに対して、たとえばミツバチは環境改善につながるとみなされ、屋上などに養蜂箱が置かれることも増えている。都市養蜂は、都市を生物多様性の保たれた持続可能な空間として再開発しようとする計画にもなじみやすい。アメリカ合衆国では、(1)こうした益虫・益獣と共存できる環境の整備がその周辺の不動産価値までも変化させ、その影響がとくに低所得者におよぶ可能性が指摘されている。他方、家庭内に目を転じると、2020年に始まる新型コロナウイルス感染症対策として行われた行動制限によって在宅時間が増加したなか、(2)癒し・安らぎを求めて犬や猫などを飼う人が増えたとされる。だが、米国の都市では飼い主がコロナ禍による経済的困窮や住居からの立ち退きによって、また物価高によって、仕方なくペットを家庭外に置き去りにする場合があります、これを防ぐために飼い主の生活を支援する動物愛護団体も現れた。

（以下省略）

問1 下線部(1)について、動物との共存を促す環境の整備が低所得者にどのような影響を与える可能性があるのかを説明しなさい。（75字以内）

問2 下線部(2)について、ペット数が増加した背景には、そもそもコロナ禍以前からペットの「家族化」が進んでいたことがあるといわれている。このペットの家族化が意味する社会の変化について、日本を例にして説明し、それが都市化とどのように関連するのかを論じなさい。（125字以内）

（以下省略）

とされているが、入試科目を「地理探究」のみとして「地理総合」を含まない国公立大や私大でも出題例は多い。**表4**にハザードマップを用いた出題例を示したが、京都大学も入試科目は「地理探究」のみとしている。実際のハザードマップはカラーで示されることが多く、モノクロの入試問題で扱うには制約が多いが、グレースケールで判読できるよう工夫した出題も見られるようになった。またハザードマップそのものは使用しないがハザードマップに関する出題は、**北海道大学**^①、**東京大学第3問 設問B**、**名古屋大学問題I**などでも見られ、入試問題の定番となっている。

表4 ハザードマップを使った問題（2026 年度）

大学 問題番号	用いられたハザードマップと設問内容
共通テスト 地理総合（本試） 第3問 問4	ある地域の洪水と高潮の浸水想定区域と避難施設を示したハザードマップ：洪水に該当する図と避難施設を GIS で分析した図の条件の組み合わせの選択。
京都大学 Ⅲ	仙台市周辺の津波ハザードマップ：浸水リスクが高いと想定されている区域にも指定緊急避難場所がみられる理由。
明治大学 （文）	浅間火山ハザードマップ：溶岩流、火砕流、火山ガス、土石流の範囲の判定。火山灰の降灰範囲が火口から東に広がると予測される理由。
近畿大学 （1/24 実施）Ⅱ	箱根小涌谷駅付近の住宅地の浸水想定区域、土砂災害ハザードマップ：図から防災対策を述べた文の正誤判定。
近畿大学 （1/24 実施）Ⅲ	ある地域の洪水、津波ハザードマップと陰影起伏図、地形分類図、人口メッシュマップ＋施設分布図：災害リスクなどについて述べた文の正誤判定。

表5 データセンターに関する問題（2026 年度）

大学 問題番号	設問内容
京都大学 Ⅴ問(3)	石狩川河口付近の地形図上の地点にデータセンターが建設されたことを示し、この地域にデータセンターが立地する気候上の利点を答えさせる。
愛知教育大学 Ⅲ	▶データセンターの世界全体棟数に占める各国別割合を示す図と、各州の世界全体の名目 GDP に対する割合・インターネット利用率・電力アクセス率を示す表を用いて、アフリカでデータセンターが極めて少ない理由を「経済規模の制約」と「基礎インフラの課題」の視点から説明。▶アフリカでデータセンターを建設するのに適した場所を図から選びその理由を答えさせる。

▶今後出題が増えると思われるテーマ：データセンターの立地

個別入試では、まだ教科書では扱われていない新しい動きが取り上げられることがある。急速な AI の普及により世界各地で建設が進むデータセンターは、電力供給や通信環境などのインフラの整備や、気候条件や自然災害のリスクなど立地条件についてさまざまな問い方ができることから、今後出題が増えると思われる。表5に示したように今年度の入試でも、すでに京都大学や愛知教育大学で出題されている。

4 論述問題の形式・テーマと対応策

表6は、国公立の主要大学における論述問題の分量と扱われたテーマを示したもので、大学により全体の分量

や1題あたりの字数は異なり、15 字程度の要点のみ述べるものから、300 字に及ぶ大論述までさまざまである。今年度は問題数や総字数が増えた大学が多く見られた。問題の内容は、単純な用語の説明、図表に示された地理的事象の地域的な違いの要因、経年変化を示す図表から変化の背景を説明するなど多様である。知っていることを指定された字数にまとめるだけでなく、資料の判読力、論理的思考力、簡潔な表現力を試す論述問題が多い。こうした問題への対策としては、さまざまな資料を読み取り考える力を養うことが重要で、『新詳地理探究』の探究 TRY や QR コンテンツの用語解説を活用したり、さまざまな図表をコンパクトに解説した『新詳地理資料 COMPLETE』などを使ったりした学習が効果的である。

表6 おもな国公立大二次の論述問題の分量とテーマ：その1（2026 年度）

	論述 問題数	総字数	1題あたり 平均字数	テーマ（設問内容）
北海道 大学	14	1250 字程度	90 字 程度 30 ～ 150	▶地震発生時に三角州で、建造物が破壊される被害が発生しやすい理由。▶ハザードマップ整備や避難訓練の実施が、津波からの逃げ遅れを防ぐために有効である理由。▶新旧地形図読図【町役場の移転後の方がこの地域の津波に対する安全性が向上した要因】。▶ケニアの主要輸出品の紅茶、切り花、野菜と果実を用いて、ケニアの農業の特徴を説明。▶日本の生産額ベースとカロリーベースの食料自給率の高低を比較。▶東京都中央卸売市場のかぼちゃの月別産地別取扱実績のグラフをもとに、国内産地および国外産地の月別出荷動向を説明。▶日本の都道府県別にみた植物工場数と施設タイプの内訳（人工光型、太陽光型、併用型）を示した地図から人工光型と太陽光型を判断しその理由を説明。▶公害とは何かを説明。▶公害と地球環境問題の違いについて説明（指定語句：加害者、被害者）。▶京都議定書とパリ協定の違いを温室効果ガスの削減主体に着目して説明。▶ロンドンが1月の気温は札幌よりも暖かく、季節を問わず平均的に降水がみられる理由。▶ジェントリフィケーションが行き過ぎた場合のデメリット。▶文中の空欄に当てはまる語句（経済連携協定（EPA））を答え、自由貿易協定（FTA）との違いを説明。▶イギリスが EU を離脱するに至った国内の社会的背景（指定語句：財政負担、保険・医療制度）。

表6 おもな国公立大二次の論述問題の分量とテーマ：その2（2026年度）

	論述 問題数	総字数	1題あたり 平均字数	テーマ（設問内容）
東京大学	21	1200 字	57 字 30～90	▶ハワイ島から天皇海山列にかけて約1000kmの範囲で、島の標高が大きく低下している理由。▶ハワイ島から1000～2500kmの範囲で、標高が海面付近でほぼ一定となる理由と、2500kmの地点より北西にサンゴ礁が存在しない理由。▶大陸の縁と海洋島のサンゴ礁の形成環境を比較し、日本の石灰石の純度が高い理由を説明。▶ブルーカーボン生態系の炭素の年間貯留量が多い理由。▶瀬戸内海のアマモ場の面積が1960～1970年代に大きく減少した理由。▶太平洋におけるマイクロプラスチックの分布に季節差が生じる理由。▶合成繊維が海洋マイクロプラスチックの供給源となっている理由を、人の日常生活と関連づけて説明。▶合成繊維が普及する以前は、衣類からの物質の供給が海洋汚染の原因にならなかった理由。▶ASEAN10か国の主要な貿易相手国・地域で、輸入においてシェア、金額いずれも中国が際立って高い伸びを示している理由。▶ASEAN諸国の輸入において日本のシェアが大幅に低下した理由のうち、日本企業の行動に関わる理由。▶オーストラリアからの輸入拡大がASEAN諸国の産業に与える影響。▶中国の4直轄市の人口あたりの消費支出とそのうちの住居支出を示した表をもとに、二つの直轄市（北京と上海）で生じている都市問題とその原因を説明。▶中国政府が重慶を直轄市に指定した目的とその実現に向けた施策。▶2000年以降に中国の東北地方で米の生産量が増加した理由。▶日本の木材自給率が大きく低下した理由。▶1960年代以前と近年の燃料材の使用法の違い。▶森林環境税などによる財政支援が国産木材の需給にもたらす変化（指定語句：建築、伐採）。▶日本で水害による犠牲者数は減少傾向にあるが経済的損失は減少していない理由。▶地形図読図〔図に示された地域（山地とその周辺）でグリーンインフラに活用する土地被覆とその役割。図に示された地域（氾濫原）でグリーンインフラに活用する土地被覆とその役割、および実際に導入する際に考慮すべき社会的な課題〕。▶GISを利用して浸水想定区域と現在の人口分布を重ね防災対策を検討する際に有効な人口構成に関する情報。
一橋大学	11	1200 字	110 字 75～150	▶動物との共存を促す環境の整備が低所得者に与える影響。▶ペットの家族化が意味する社会の変化と都市化との関連。▶マラリア感染症の地域差がみられる理由を、都市内部、および都市部と農村部の生活条件を対比させて説明。▶湿地の埋め立てが一因となって起こる自然災害の例と、それが湿地近くの住民にもたらす問題。▶地図中の国（ミャンマー）の西部における民族対立が深刻化し、大量の難民が近隣国に流出している背景。▶南シナ海で地図中の国（ベトナム）と中国との間で生じている領有権問題について、ASEANを通じた中国との交渉が進展しない理由を、ASEANの全会一致の原則にからめて説明。▶地図中の河川（メコン川）のデルタ地帯でおこなわれている主な農業と、それが国（ベトナム）の経済に果たす役割。▶東南アジア5か国（ミャンマー、ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ）の人口、GDP、日本企業の拠点数を示す表をもとに、拠点数の最も多い国（タイ）ともう1つの国を選び、これら5か国における日系企業の進出傾向は、各国の経済、社会、政治状況をどのように反映しているかを比較しながら説明。▶北欧諸国でEUに加盟していない国名・自治領名をすべて答え、それらに共通する理由を説明。▶シェンゲン協定の目的と北欧諸国における同協定の意義。▶すべての北欧諸国がNATOに加盟するに至った経緯。
名古屋大学	11	2000 字程度	125 字 程度 35～300	▶地形図読図〔図中の2地点ではどのような自然災害が発生しやすいかを地形的特徴を踏まえて説明〕。▶人口分布を示した2つの統計地図（図形表現図とメッシュマップ）の表現方法。▶人口分布に関して読み取れる内容の比較。▶米、小麦、トウモロコシの地域別生産量の比率を示したグラフから読み取れる、世界における三大穀物生産の地理的な特徴。▶日本における植物工場の数を都道府県別に示した図を踏まえて、日本における植物工場の立地の特徴を説明。▶日本の漁業生産量の推移を示したグラフのA（遠洋漁業）の漁獲量が1970年代以降に低下した背景。▶世界の漁業と養殖業の生産量の推移と主な国の漁業・養殖業の生産量の推移を示したグラフから読み取れる、1990年代以降の世界における漁業・養殖業の変化。▶写真に示された沿岸地域の養殖地でのマングローブの植林のような取り組みを通じて得られる便益（指定語句：侵食、生物多様性、生物の繁殖）。▶世界の国・地域ごとの都市人口比率（都市化率）と人口100万人以上の大都市を示した地図から整理した都市化率と大都市の密度との関係の4つの類型について、類型ごと的大都市の分布の特徴とその背景。▶日本における人口規模100位までの都市の分布を1960年と2000年について示した図から読み取れるこの期間の日本の人口分布の変化。▶大規模ニュータウンを含む春日井市における人口の年齢構造の推移（1955～1995年）を示した図から読み取れる人口構成上の特徴について、そのような特徴になった要因とこの後20年ほどで生じた変化。
京都大学	22	650 字 程度	30 字 程度 15～140	▶東南アジアの樹木被覆率を示した図から、世界遺産に登録された地形条件をいかした形態の耕作地に該当する場所を選び、その地形条件、形態を述べる。▶写真に示された農法（焼畑）で持続性を保つ方法。▶写真に示された熱帯林（マングローブ林）の分布地帯の、エビ養殖に適した自然条件。▶油やしに関わるアグリビジネスにおいて企業が担っていること。▶地図中の都市（クスコ）の気温の年変化の特徴と要因。▶地図中の都市（ロンドン）の霧を発生させる自然的要因。▶地図中の都市（リヤド）で着用される衣服に影響する気候の特徴。▶地図中の都市（カラガンダ）が属する地域で行われてきた生業と気候や植生との結びつき。▶津波ハザードマップで浸水リスクの高い区域にも指定緊急避難場所がみられる理由。▶地図上の地図記号（自然災害伝承碑）が示す場所を整備・記録することの防災上のメリット。▶都市化が進むと都市特有の水害が起こりやすくなる理由。▶水害や土砂災害が日本で起こりやすい理由。▶従来の鉄道や地下鉄に比べたライトレール（LRT）の導入上の利点。▶コンテナ活用が環境負荷低減につながる理由。▶日本における産業別テレワーカーの割合が20%未満の産業の共通点。▶三大都市圏の中で中京圏のテレワーカー割合が低い理由。▶地形図読図〔図中の港における地形上の利点。工業団地の立地上的利点。データセンター立地の気候上の利点。天然ガスからLNGへの加工法とそれにより可能となった輸送方法。石狩川の流路変化。図中の農地区画における道路の形態と名称の特徴〕。
大阪大学	11	900 字 程度	80 字 程度 50～150	▶図中の範囲（ゴビ砂漠、タクラマカン砂漠、黄土高原）の乾燥地の成因と気候の特徴をアタカマ砂漠と比較。▶黄砂の拡大の背景にある人間活動。▶日本で黄砂が3～5月に集中する理由。▶日本、韓国、中国の近年の人口動態の変化とそれが非大都市圏の地域に与える影響と政策的対応。▶中国に進出する日本企業の現地仕入れ額の推移の図をもとに、21世紀以降の中国への日本の海外投資と産業立地の変化を説明（指定語句：水平分業、現地化）。▶新旧地形図読図〔異なる時期に形成された2つの住宅密集地の地形的特徴とそこに立地した自然条件上の理由。1970年代に形成された住宅密集地が現在抱える社会的課題とその原因〕。▶いくつかの年（1930年、1960年、1980年、2020年）の都道府県別1人あたり所得の分布図をもとに、1930年に北海道や福岡県の所得が高い共通の理由。▶1960年～1980年に大都市圏と非大都市圏の間の1人あたり所得の変化が生じた理由を製造業の立地に注目して説明。▶東京一極集中の原因（指定語句：国際化、サービス経済化）。▶メキシコにおける国内地域間経済格差とその背景（指定語句：USMCA、プライメイトシティ）。
九州大学	7	920 字	130 字 80～200	▶サマータイム制度の利点と欠点。▶ハブ空港の特徴。▶フランクフルト空港でA群（パリ、チューリッヒ、ローマ）とB群（ダブリン、マンチェスター、イスタンブール）の空港に向かう乗り換え手続きの違い。▶羽田からフランクフルトまでの飛行経路が2010年代と2025年で違う理由。▶東南アジア大陸部の伝統的農業の特徴を平野部と山間部で比較。▶東南アジア諸国における工業化の進展と衣類生産の位置付け。▶インドネシアの首都移転計画の背景（指定語句：一極集中、スラム、地盤沈下）。